

雜 錄

自由貿易制度並金本位から離脱せる英國の鐵鋼貿易 (本年上半期の結果) (The Iron and Coal Trades Review, July 15, 1932.) 各月の鐵鋼輸出入數字は必ずしも重要視すべきものとは限らざるも、6箇月に亘る比較的長き期間の數字は、昨秋の金本位拠棄と我が國策たる自由貿易制度から離脱せる影響の徵證を窺はんが爲め異常の興味を以て凝視せらるゝであらう。茲に想起せねばならぬことは、昨秋の不當輸入條例の下に於ては鐵鋼は無關係であつたことゝ鐵鋼に關しては本年3月1日から1割の收入關稅(保護關稅に對するもの——譯者)が賦課せられ越えて4月26日から大抵の鋼材に對して23%の關稅が追加され、尙6月14日より銑鐵にも同様追加されたことである。

第1表は1923年上半期の鐵鋼輸出入數字と前年同期の數字との比較を示すものであつて、之れに依つて見れば本年上半期の輸入は前年同期の輸入數字に比し309,400噸即ち2割4分を減じて居るが輸出の減少は僅に46,700噸即ち5分を減じたに過ぎない。又入超高は前年の上半期には277,700噸に達したが本年は僅に15,000噸に過ぎない。尙最後の4箇月間に於ては各月共1930年9月以前に於て常例であつた出超を再び示すに至つた、本年6月の輸入はルールの占領が大陸の輸出を削減した1923年12月以来のいづれの月の數字より少なかつた。

然しながら、前記の數字には、英國の通貨及財政政策以外の力強い諸要素が反映して居ることを認めねばならぬ。鐵鋼輸入減少の主因は財政策の變更或は又金本位の離脱に在るものではない、何となれば輸入關稅の適用を見たのは6ヶ月の内僅に2箇月に過ぎなかつたからである。尙且大陸の製造業者は以上の2要素を度外視する價格で大量の鋼材を依然として提供しつつあるのである。これが爲め大陸の生産業者が必然大損失を招くの餘儀なきことは1929年のアントワープF.O.B.相場と1932年6月末の相場とを比較すれば明かである(噸當り金磅)

1929年9月 1932年6月末

鑄物	3磅	10	志	0	片	1磅	18	志	6	片
シートバー	4	17		6		2	0		0	
厚板	6	5		6		2	13		0	
型物	5	2		0		2	0		0	

佛蘭西及白耳義工場の「社報」には現在蒙りつゝある損失の幾部分を啓示してゐるが然し缺損の全貌は本年の作

業の結果を待たねば判らない。“Comite des Forges”的會長は5月の年大會に於て次の如く述べて居る。

「鐵鋼の輸出價格は、生産費を割ること3割乃至4割の低値で販賣する佛蘭西諸會社の價格を含んで居る」

斯の如き價格に直面したにも拘らず過去6箇月間に於ける英國の輸入が減少を示したのは、一は世界を通した例外的鐵鋼需要の低減と他は昨年最後の數箇月間に起つた買占めに起因するものである。買占めの證跡は、世界主要國の產鋼數字が世界の需要減退を物語つて居るにも拘らず、昨年第3四半期に於ける月當り輸入平均217,700噸が第4四半期に於ては307,300噸へ増加したことによつて看取せらるのである。英、米、獨、佛、白耳義及ルクセンブルクの產鋼高合計の遞減次の如し。

1929	1930	1931
98,290,000噸	74,350,000噸	52,590,000噸
1932上半期の生産高に依る年產率	37,100,000	

白耳義は相變らず英國輸入噸數の大部分を供給して居るが同國は過去18箇月間に於て現在の破壊的價格が齎らす損失を最少ならしめんが爲め勞銀を約2割引下げたのであつた。獨逸からの輸入は此の2箇年内に著しく減少した。

第2表は主要仕向地別英國鐵鋼輸出高を示すものであつて購買力の減退、關稅其他要素の結果が明かに看取せらる。輸出の減少した項目の主なるものは、銑鐵、棒鋼、竿、形、軌條、デューブ、パイプ及附屬品であつた。

第1表 本年上半期及昨年上半期に於ける
英國鐵鋼輸出入比較(単位千英噸)

	輸 入		輸 出		出超(+)		入超(-)	
	1931年	1932年	1931年	1932年	1931年	1932年	1931年	1932年
1月	221.8	170.4	167.4	167.3	(-) 54.5	(-) 3.1		
2月	177.1	252.3	143.5	139.8	(-) 33.6	(-) 112.5		
3月	210.5	130.2	170.3	166.4	(-) 40.2	(+) 36.2		
4月	193.4	144.5	187.9	180.4	(-) 5.5	(+) 35.9		
5月	227.8	144.0	167.5	151.3	(-) 60.3	(+) 7.3		
6月	246.3	126.1	162.6	147.3	(-) 83.7	(+) 21.2		
合計	1,276.9	967.5	999.2	952.5	(-) 277.7	(-) 15.0		

第2表 1930年、1931年及1932年に於ける
仕向地別英國鐵鋼輸出高月平均(単位千英噸)

仕向地別	1930			1931			1932		
	年月	年月	5ヶ月 平均	年月	年月	5ヶ月 平均	年月	年月	5ヶ月 平均
諸 瑞	43	22	22	丁	抹	62	43	44	
威 典	23	12	10	獨	逸	34	22	19	

和 蘭	6·1	4·1	3·9	外國合計	130·0	63·2	69·7
白 耳 義	7·1	3·0	2·7	印 度 及 セイロン	31·1	16·0	17·0
佛 蘭 西	8·1	4·2	2·2	海 峠 植 民 地	8·5	3·1	4·8
西 班 牙	4·4	2·0	1·5	英 領 東 亞 弗 利 加	5·2	2·1	0·6
伊 太 利	4·5	1·7	1·8	英 領 西 亞 弗 利 加	5·8	3·1	2·4
支 那	4·1	3·8	5·2	南 阿 南	22·5	16·7	8·4
日 本	7·3	4·9	7·9	加 奈 陀	10·8	8·9	6·0
蘭 領 東	4·6	3·3	3·2	豪 洲	17·7	5·8	8·2
亞 弗 利 加				新 西 蘭	10·8	5·3	4·2
智 利	3·6	0·5	0·6	英 領 地 合	133·3	69·1	63·9
ブ ラ ジ ル	5·8	2·3	3·2	總 計	263·3	165·1	161·1
アルゼンチナ	26·1	7·5	6·7	(M. M.)			
合 衆 國	3·9	1·0	4·1				

國際粗鋼カルテルが 1932 年上半期に就き發表せる所に依れば、ザール地方を除きたる各國の 鐵生産量は何れも著しき減少を示し、カルテル參加國中ドイツは 生產割當額と實際生産額との比較に於て不況の 程度最深刻なりとドイツ側は唱へつゝあり。(海外經濟事情 5·41)

世界アルミニューム工業(昭和 7 年 8 月 25 日附在ベルリン長井商務書記官報告)世界に於ける アルミニュームの需要は 1931 年に於て既に顯著なる減少を示せる處、1932 年に入りても亦引續き減少しつゝあり。1932 年最初の 5 ヶ月間に於ける粗アルミニュームの輸出を見るに世界市場への二大輸出國たるスイス及カナダは前年同期のものに比し、夫々 78 % 及 53 % の減少となり居れり。一方ドイツの輸出も亦 11 % の減少なり。

以上右の如き輸出減の現象は 一般經濟界不振に因る處大なりと雖も、アルミニューム價格の高きに因る處多し。因に 1932 年 1 月 1 日當り 85 ポンドより 80 ポンドに價格引下げを行はれたりと雖、例へば銅の如き 或は他の廉價なる原料品とは激甚なる競争狀態に在る次第なり。アルミニューム・カルテル 公表の價格は紙上の 價格にして、大部分は消費者輸出業者等に對し幾多の特約に依り、事實上其の價格より廉くなり居れりと雖、尙比較的他の原料品より高價なり。アルミニューム 價格はアルミニューム世界カルテルより公表せらるゝものなり。而して其カルテルは即ち 1931 年 10 月バーゼルに創設せられたる Hlliance Aluminium Compagnie H. G. なるが、加盟國はスイス、ドイツ、フランス、英國及カナダの 5 ヶ國なり。其アリアンス、アルミニューム會社の 排込資本は 3,500 萬 フランにして、内 500 萬 フラスはスイス、600 萬 フランはドイツ、875 萬 フランはフランスより拂込まれたるものなり。

最近發表せられたるアメリカの 統計に依れば、殆ど何れの國に於ても 1932 年のアルミニューム生産は 益々減少し居れり。但し 1930 年迄は尙幾多の 國に於ては該生産は著しき増加を見たる次第なり。而して一つの例外として擧ぐべきは英國なるが、同國に於しは 1931 年の生産は 14,300 t (前年 14,000 t) に增加せるが、以上は British Alminium Co. の設備の漸く完成に近けると共に、1932 年初期實施せられたる保護關係に起因するものなりと稱へられ居れり。現に 1932 年最初の 5 ヶ月間に於ける英國のアルミニューム輸入は、前年同期に於けるものに比較せば前者は殆ど其の半に過ぎざるなり。更に尙一つの例外はイタリーにして、同國に於ける 1930 年の生産は 7,968 t なりし處、1931 年に於けるものは 10,960 t にして顯著なる増産を示し、10 年以前の生産に比

國際粗鋼カルテル復活説 (昭和 7 年 8 月 30 日附在ベルリン長井商務書記官報告) 2 年以來鐵材の生產並販賣の統制力を完全に喪失せる 國際粗鋼カルテルに對し、最近關係國間に頻に再生の可能性ありと傳へられ居れり。フランス側の意見によれば、當時國際粗鋼カルテル崩壊の主因をなせるベルギー國鐵工業者が自國內の諸懸案を解決し得るとせば、1932 年 9 月末日乃至 10 月初旬迄に國際粗鋼カルテルを復活せしめる可きことの必ずしも不可能に非ずとのことなり。

國際粗鋼カルテルの 統制力喪失以來、鐵材の需給の調節は全く無秩序を極め、其間幾度か各國當事者間の協議を重ね統制の恢復を企てたれども、各國の生産力も其後著しき懸隔を來し、自然生産量の割當額問題に於て意見一致せず遂に成案を見るに至らざりし次第なり。又鐵材の投賣を防止する爲に最利害關係大なる ドイツ側より企られたる幾度かの努力も、今日迄何等の 成果を齎さゞりし次第なり。

以上の如き事情に加ふるに 鐵業界の不況愈々深刻となりたる今日、近き將來に於てベルギー國鐵工業者が突然從來の投賣を停止し國際協調の途に出ることは 想像し得ざる處にして、該豫想に何分の實現性ありや 疑問なりとドイツ側は觀測し居るものゝ如し。

更に英國は外國鐵材の輸入に對し 33·3% を下らざる關稅を課すのみならず、關稅適用期間を 1931 年 10 月 25 日迄延期して國內鐵工業を保護し、其期間内に 銳意企業の合理化を計らんと計畫し居るにも拘らず、大陸よりの鐵材輸入の統計の示す處に依れば、依然として減退の傾向を示し居らず、又之が爲め同關稅適用期間の 延期も自ら避くべからざるものと觀らる。而して前顯の觀測に基き、英國鐵工業者も結局前記保護關稅の全然效を奏せざることを覺り、國際粗鋼カルテルに加入するに至るべしと説くものあれども、今日の所未だ漠然たる一つの豫想に過ぎざるものゝ如し、

しては實に 10 倍以上に達せる趣なり。然も 1932 年に於ては一層増産の見込なりと傳られ居れり。而してイタリヤに於ける 1932 年の消費量は 7,700t (前年 7,400t) なりしを以て生産過剰なりし次第なるが、輸出は 3,018t (前年 709t の多きに達せり)。

北米合衆國の生産は 1931 年に於しは 80,500t (前年 133,890t)、カナダに於けるものは 29,500t (前年 34,900t) ドイツに於けるものは 25,000t (前年 30,200t) なり。スイスに於ける生産は著しき減少にして 16,000t (前年 20,500t) なるが、粗アルミニュームの輸出は 1930 年に於ては 9,233t なりし處、1931 年は 9,934t なりしを以て、本品の輸出の減少は左程大ならざるなり。而してフランスの生産は 24,000t (前年 29,000t)、ノールウェイの生産は 21,421t (前年 27,357t) なり。

世界總生産額は 1931 年 225,981t、1930 年 272,415t なるが、1929 年は最高生産年度にして 281,998t なり。

内外最近刊誌参考記事目次

Heat Treating and Forging, Sept., 1932.

The Influence of Hot Rolling and Forging upon the Structure of Steel Alloys. W. J. Merten. pp. 525-528.

Flow Lines in Forged Steel. Eugene W. Nelson. pp. 529-530.

The Gaseous Cementation of Steel. E. C. Cook. pp. 531-534.

Heat Treating Furnaces in Forge Shops. R. R. Lappelle. pp. 539-542.

Combustible Losses in Flue Gases. J. D. Keller. pp. 543-546.

Metal Industry (New York), Sept., 1932.

Materials Handling in the Small Brass Foundry. D. G. Anderson and B. F. McAuley. pp. 349-351.

Oxwelding Brass and Bronze. pp. 352-354.

The Preparation of Metals for Electroplating. pp. 359-360.

How Cadmium Resists Aqueous Solutions. B. E. Roethell, C. J. Franz and B. L. McKusick. pp. 361-363.

Metal Industry (New York), Oct., 1932.

Non-Ferrous Metals in Railway Electrification. Francis A. Westbrook. pp. 391-392.

Powdered Metals By Electrolytic Methods. Joseph Rossman. pp. 396-397.

The Preparation of Metals for Electroplating. pp. 400-401.

Analysis of Free Cyanide in Brass Plating Baths. L. C. Pan. pp. 402-404.

The Metal Industry (London), Aug. 19, 1932.

Zinc Extraction Works Practice. C. C. D. pp. 171-173.

Note on Manganese-Bronze. F. A. W. Livermore. pp. 175-176.

Some Factors Affecting the Preece Test for Zinc Coatings. H. H. Walkup and E. C. Groesbeck. pp. 177-178.

Factors Affecting the Physical Properties of Cast Red Brass (85 Cu, 5 Zn, 5 Sn, 5 Pb). H. B. Gardner and C. M. Seager. pp. 181-183.

The Metal Industry (London), Aug. 26, 1932.

Aluminium Bronze in the Foundry. Wesley

Lambert. pp. 195-196.

Factors Affecting the Physical Properties of Cast Red Brass (85 Cu, 5 Zn, 5 Sn, 5 Pb). H. B. Gardner and C. M. Seager. pp. 199-200.

Some Factors Affecting the Preece Test for Zinc Coatings. H. H. Walkup and E. C. Groesbeck. pp. 201-202.

Practical Plating—Theoretical Considerations, II. E. A. Ollard. pp. 205-206.

The Crystal Structures of Electrodeposited Alloys—An X-Ray Diffraction Study of Silver-Cadmium Deposits. Charles W. Stillwell and Lawrence E. Stout. pp. 206-208.

The Metal Industry (London), Sept. 2, 1932.

Aluminium Bronze in the Foundry. Wesley Lambert. pp. 221-223.

Influence of Recrystallization Temperature and Grain Size on the Creep Characteristics of Non-Ferrous Alloys. C. L. Clark and A. E. White. pp. 225-228.

Effect of Cold Working on the Izod Notched Bar Impact Value of Monel Metal. N. B. Pilling. pp. 229-231.

The Metal Industry (London), Sept. 9, 1932.

Some Notes on the Common Uses of Nickel. Antony Seton. pp. 243-245.

Influence of Recrystallization Temperature and Grain Size on the Creep Characteristics of Non-Ferrous Alloys. C. L. Clark and A. E. White. pp. 249-250.

Practical Plating—Plating Shop and Plant, I. E. A. Ollard. pp. 255-256.

The Metal Industry (London), Sept. 16, 1932.

14-Carat Standard Legalised for Gold Wares. Ernest A. Smith. pp. 267-270.

Method of Preparation of Lead and Lead Alloy Cable Sheath for Microscopic Examination. W. H. Bassett and C. J. Snyder. pp. 271-274.

Corrosion-Fatigue of Metals. H. J. Gough. pp. 275-277.

The Metal Industry (London), Sept. 23, 1932.

Notes on Foundry Sands. F. A. W. Livermore. pp. 293-294.

Corrosion-Fatigue of Metals. H. J. Gough. pp. 295-298.

The Foundry, Sept., 1932.

Mixing Copper with Lead. Charles Vickers. pp. 24-25.

Melts Iron in Rotary Furnaces. Vincent Delport. pp. 26-27.

Steel Castings in the Navy. H. Rock. pp. 28-29.

Controlling Steel Foundry Sand. A. V. Leun. pp. 30-31.

Specifications for Gray Iron. pp. 32-33.

Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 46-48.

Zeitschrift für Metallkunde, Sept., 1932.

Über die Diffusion von Metallen in festem Blei. W. Seith und J. G. Laird. s. 193-196.

Über den Zusammenhang zwischen regelmässiger Atomverteilung und Resistenzgrenzen. U. Dehlinger und F. Giesen. s. 197-198.

Die Ausdehnung des Zinks bei steigenden Temperaturen. H. Sieglerschmidt. s. 198-200.

Das Kaltstauchproblem der Schraubenfertigung. W. Aumann. s. 200-206.

Leichtmetall-Sandguss, seine statische und seine Schwingungs-Festigkeit. W. Saran. s. 207-210.

Arbeitsverhältnisse an einer direkt augetrie-

benen 1500 t-Strangpresse mit 300 at Pressdruck. Bernhoeft. s. 210-213.
Harte Qualitätslegierungen des Kupfers. K. Ewig-Daues. s. 214-219.
Die Erholung von den Folgen der Kaltbearbeitung. G. Tammann. s. 220-222.
Oxydationsvorgänge an Kupfer und seinen Legierungen in flüssiger Phase und ihr elektrochemisches Verhalten. L. W. Haase. s. 223-226.
Ein neuer Walzentyp für das Kaltwalzen von Metallen. F. Krau. s. 226-229.
Die Ausscheidungshärtung im Schliffbild. H. Röhrig. s. 231-233.
Verdeckte Wasserstoffkrankheit an brüchigen Kupferdrähten. C. Schaarwächter. s. 234-236.
Das Kurzfristige Glühen von Aluminiumbändern und -blechen in elektrischen Durchziehöfen. H. Masukowitz. s. 236-239.

(若林)

Steel, Sept. 19, 1932.

Diffusion Combustion Heating Reduces Scaling Loss of Steel. Part II. W. Hepburn. p. 21-23.
Density of Smoke in Stacks Is Measured by Photocell. R. D. Bean. p. 24-26.

Steel, Sept. 26, 1932.

Selenium in 18-8 Steel Improves Free Machining Properties. p. 23-25.

Steel, Oct. 3, 1932.

Improving Open-Hearth Furnace Design. Part I. William C. Buell. p. 23-26.

Steel, Oct. 10, 1932.

Improving Open-Hearth Furnace Design. Part II. William C. Buell. p. 23-26.

The Iron Age, Sept. 15, 1932.

Liquid Baths for Heat Treating—Sodium and Other Cynides. W. Paul Eddy. p. 406-407.
Cemented Carbide Cutters in Milling. R. E. W. Harrison. p. 408-410.

The Iron Age, Sept. 22, 1932.

Controlled Cooling for Heat-Treating Furnaces. A. N. Otis. p. 448-449.

Definite Progress in Alloy Steel Despite The Depression. Edwin F. Cone. p. 452-453.

Determining Size and Personnel for Oil-Burning Furnaces. Robert C. Hopkins. p. 456-458.

Surface Decarburization of Malleable Iron. John H. Hruska. p. 460-462.

The Iron Age, Sept. 29, 1932.

Spot Welding the Rustless Steels. V. W. Whitmer. p. 498.

Liquid Baths for Heat Treating—Advantages and Disadvantages of Salt Baths. W. Paul Eddy. p. 499.

Blast Furnace and Steel Plant, Sept. 1932.

Finishing the Heat of Steel. J. H. Hruska. p. 705-708.

Evaluation of One Percent Silicon in Iron Ores. Ralph H. Sweetser. p. 708-711.

Reducing Cost in Coke Plants. p. 712-714.

Stainless Production Equipment and Method of Manufacture. Part IV. E. C. Smith. p. 715-717.

Heat Transfer in Recuperators. W. Trinks. p. 718-720.

The Manufacture of Steel Sheets. James Bryden. p. 721-722.

Combustible Losses in Flue Gases. J. D. Keller. p. 723-726.

Foundry Trade Journal, Sept. 9, 1932.

Shop Method for Determining Volume Changes in Cast Iron During Casting. E. J. Ash and C. M. Saeger. p. 140-141.

A New Oil-Fired Furnace for High-Test Cast Iron. F. Brocke. p. 144.

Foundry Trade Journal, Sept. 15, 1932.

Mould Materials for Non-Ferrous Strip Ingot Castings. G. L. Bailey. p. 154-156.

Fusion Welding as Related to Steel Castings. T. S. Quinn. p. 157-158.

Efficient Casting Design. F. C. Edwards. p. 161-162.

Foundry Trade Journal, Sept. 22, 1932.

Fusion Welding as Related to Steel Castings. T. S. Quinn. p. 167-168.

Mould Materials for Non-Ferrous Strip Ingot Castings. G. L. Bailey. p. 173-177.

Foundry Trade Journal, Sept. 29, 1932.

Black Sand. Ben Hird. p. 188-192.

Metal Progress, Oct., 1932.

A Specialized Mill Practice for the Stainless Steels. E. R. Johnson and R. Sergeson. p. 21-27.

Heat Treating in the Specialty Tool Plant. M. E. Dorner. p. 28-32.

Heating Steel for Forging. R. E. Waldron and N. L. Deuble. p. 33-38.

Mill Inspection by Deep Etch. G. V. Luerssen. p. 39-41.

Design of Heat Resisting Castings. Ralf S. Cochran. p. 45-49.

Age Hardening in Strip Steel. Earle B. Whittemore. p. 50-52.

Castings Hardened from below Critical. Charles W. Briggs. p. 53-56.

Metals and Alloys, Sept., 1932.

Fatigue of Metals. H. F. Moore. p. 195.

Importance of Fatigue of Metals to Engineering Design. T. A. Solberg and H. E. Haven. p. 196-199.

The Resistance of Copper and its Alloys to Repeated Stress. H. W. Gillett. p. 200-204.

Improved Method of Polishing Metallographic Specimens of Cast Iron. J. R. Vilella. p. 205-206.

Journal of the Am. Welding Society, Sept., 1932.

On the X-Ray Determination of Stress in Welds. John T. Norton. p. 5-7.

Welded Rolled Steel Design for the Iron and Steel Industry. Christian A. Wills. p. 8-13.

Load Test on Welded Roof Truss. Chas. H. Jennings. p. 13-18.

Application of Welding to Pressure Vessels. P. R. Hawthorne. p. 19-23.

The Metallurgy of Welds. Part B. J. C. Holmberg. p. 23-26.

Metal Spraying—the Process and Devices and the Influence upon Welding of Some Recent Developments. H. B. Rice. p. 26-30.

Metal Deposition in Electric Arc Welding. Gilbert E. Doan and J. Murray Weed. p. 31-33.

Lead "Burning" or Welding. Robert L. Ziegfeld. p. 33-37.

Stahl und Eisen, 8 Sept., 1932.

Selbstkostenberechnung in Schmiedebetrieben auf Zeitgrundlage. Erich Ezermak. s. 869-879.

Einfluss von Durchmesser und Abstand der Biegerollen auf die Ergebnisse der Biegeprobe bei geschweißten Proben. Karl Ludwig Zeyen. s. 879-880.

Stahl und Eisen, 15 Sept., 1932.

Zur Reduktion des Mangans in Höchhofen. Fritz Wünst und Hans Heinz Meyer. s. 893-897.
Versuche mit feuerfesten Sondersteinen an Elektrofugen-Gewölben. Franz Sommer. s. 897-901.
Plannung von Kurzschlussankernmotoren für den Einzelantrieb von Arbeitsrollen. Wilhelm Helias. s. 901-904.

Stahl und Eisen, 22. Sept., 1932.

Grosszahl-Untersuchung der Güte von Elektroschweissnähten und der Fähigkeiten von Schweißern. Ernst Pohl. s. 917-922.
Neue Formen des Streckenansbanes mit Stahl. Rudolf Würker. s. 922-925.

Die giesserei, 2 Sept., 1932.

Über das gattieren synthetischer Formsande mit Hilfe ihrer spezifischen Oberfläche. E. Diephlag und H. Tenber. s. 342-346.
Der Einfluss einer unwesentlichen Abweichung von der Werkzeichnung auf die änszere Beschaffenheit des Abgusses. E. H. Freytag. s. 346-348.

Das Durchformen langer Werkzeugmaschinenbetten, insbesondere Drehbankbetten. Rudolf Marker. s. 348-354.

Die Giesserei, 30. Sept., 1932.

Beitrag zur Frage der Gattierung hochwertigen Guszeisens. Uhlitzsch. s. 393-396.

Korrosion und Metallschutz, Sept., 1932.

Elektrolytische Pigment Korrosion. Hans Wagner und Georg Heintz. s. 225-226.
Die Modifizierung der Einsteinschen Zahizkeitsfunktion und ihre Bedeutung für die Anstrichforschung. W. Beck. s. 229-234.

(岡 村)

北海道石炭業會々報 第 216 號

上半期本道石炭需給状態 小笠原 榮治 p. 9

鑛山査定法 道 實 武 p. 14

理化學研究所彙報 第 11 輯 第 9 號 昭和 7 年 9 月

鑛接後鑛接部を腐蝕すること 鈴木 康生

なき有機性金屬鑛接剤 尾間 一彦 p. 1060

研究報告 第 3 號 住友伸銅鋼管株式會社

特殊アルミニウム真鍮復水器 田邊 友次郎

管「アルブラック」 小磯 五郎 p. 122

耐酸銅合金“AR”的性能 田邊 友次郎

就て 小磯 五郎 p. 134

デュラルミンの性質と組成との

關係 松田 政 p. 134

デュラルミンプロイルの露天腐

蝕試験 稲村 賢三 p. 146

鍛鍊アルミニウム合金の静的及

動的抗張試験 田村 正郎 p. 159

航空機用鋼管及鋼材としての不

鉄鋼に就て 絹川 武良司 p. 163

工政 第 151 號 昭和 7 年 9 月

滿洲製鐵業の將來 伍堂 卓雄 p. 1

鞍山製鐵所の將來 矢野 耕治 p. 4

朝鮮鑛業會々報 第 117 號 9 月號

金探鑛獎勵金交附規則

朝鮮總督府令第七十八號 p. 1

朝鮮金鑛處理狀況 p. 11

研究報告 昭和 7 年 8 月 三菱航空機株式會社

No. 342 高炭素合金鋼の燒戻 石澤 命知

による變化 森 義彦 p. 1

No. 343 Duralumin の常温加工と

機械的性質並に時效硬化現象 廣瀬 常吉 p. 20

No. 345 White metal に就て 森 義彦 p. 50

造船協會會報 昭和 7 年 4 月 第 49 號

軍艦八重山船體に應用したる

電氣熔接に就て 大蔵 大輔 p. 11

電弧熔接に於ける鎔接工の技

倆増進に就て 田村 繩平 p. 95

電氣評論 9 月號 昭和 7 年 9 月 10 日

電氣 鎔接 岡本 趟 p. 727

電氣製鋼 第 8 卷 第 9 號 昭和 7 年 9 月 15 日

廢棄瓦斯利用の一つの計算 海野 三朗 p. 417

耐熱合金の熱膨脹 金友 潤聲 p. 428

採鑛冶金月報 第 10 年 第 9 號 昭和 7 年 9 月

粗銅中の砒素除去法の研究 渡邊 俊雄

森田 四郎 p. 222

土木試驗所報告 第 13 號 昭和 7 年 7 月

鋼矢板試驗 青木 楠男

造兵彙報 第 10 卷 第 5 號 昭和 7 年 9 月 1 日

タツブ及ダイスに就て 加藤 松義 p. 33

ダイス形狀の燒狂ひに及ぼす

基礎的研究 島田 康治 p. 45

ヒアノ線に就て 銅金 義一 p. 63

應用力學聯合大會へ造船協會提出 (昭和 7 年 8 月)

造船協會

日本鑛業會誌 Vol. 48 No 569. 1932 昭和 7 年 9 月

錫精鑛よりタングステンの抽

出試驗 伊藤 尚 p. 854

臺灣にて發見せる苦土鑛に就 伊賀崎 基助

て 曾根 文二 p. 862

燒入した輕合金の成熟及び燒

戻の機構に就て 武内 武夫 p. 873

鋼索用針金の繰返弯曲試驗 水田 準一 p. 891

海外經濟事情 第 5 年 第 38 號 昭和 7 年 9 月 26 日

- 鑄造物生産状況 p. 48
- 産業公論** 第3卷 第10号 昭和7年10月1日
日満經濟の統制は刻下の急務なり 松岡 洋右 p. 8
- 鑄物** 第4卷 第9号 昭和7年9月
多量生産に於ける真鍮の型鑄物 陸軍造兵廠 p. 1
高圧及低圧タルビン車室の鑄造 方法に就て 海軍艦政本部 p. 3
鑄造用マグネシウム軽合金とその 鑄造法に就て 石田 四郎 p. 6
鑄物場キュボラ用ヨークスに就て 岡島 奈良藏 p. 16
- 滿洲技術協會誌** 第9卷 第51号 昭和7年9月
技術、技術者の重視重用を進言 p. 355
請願書を滿洲國に提出 p. 356
滿洲の鑄業に就て 岡本 榮 p. 381
滿洲國瀋海鐵路新造客車、ニッケル資料發刊 p. 396
- 朝鮮鑄業會誌** 第15卷 第3号 昭和7年9月15日
化學工業と合金 山村 銳吉 p. 145
朝鮮に於ける產金と其の移動に 關する調査 京城總裁席調査課 p. 162
朝鮮に於ける金鑄業の助成に就て 内田 鯨五郎 p. 213
- 電氣化學會誌** 第54号 昭和7年9月
銅面に歪模様を生成せしむる 加藤 輿五郎
新方法 速水 永夫 p. 90
- 金屬マグネシウム製造の一行程 立木 健吉
開 正之 p. 103
- 金屬狀態(其五) 武井 武 p. 103
- 電氣爐工業製品より有機化合物 の製造に於て(其一) 杉野 喜一郎 p. 108
- 金屬の研究** 第9卷 第9号 昭和7年9月
合金の時效硬化に及ぼす磁氣處理の影響に就て 松山 芳治 p. 367
所謂オキシン法に依る Cu, Mg, Zn, Cd, Al, Bi, Fe, Mn, Ni, Ti, Co, U, Th, Ca 及び Pb の定量 (熱天秤に依る研究) 石丸 三郎 p. 378
- 銅を主成分とする合金の包晶反応に依る結晶粒微細化の現象 朝戸 順 p. 392
- 日本化學會誌** 第53帙 第9号 昭和7年9月25日
酸化ストロンチウム酸化錫とヨリ錫酸鹽を生成する接觸反應 櫻井 春雄 p. 852
- 海外經濟事情** 第5年 第43号 昭和7年10月31日
- 英國石炭業 イタリー國製鋼強制トラスト設立
- 九州鑄山學會誌** 第3卷 第4号 昭和7年10月10日
金に就て 矢部 兵之助 p. 1
鐵—炭素系の表面張力測定に就て 本多 顯曜 p. 40
- 工業雜誌** 第862号 昭和7年10月1日
車輛用鑄鐵製輪子の研究に就いて 吉澤 英雄 p. 383
- 船體構造に電氣熔接の應用に就て 佐々木新太郎 p. 393
- 理化學研究所彙報** 第11輯 第10号 昭和7年10月
一酸化炭素の接觸的分解 土屋 弘 p. 1136
低温生成モリブデン炭化物のX線
的一觀察 土屋 弘 p. 1150
硝酸による鼠鑄鐵の腐蝕と發熱現象 山本 洋一 p. 1157
- 大日本工業協會雜誌** Vol. 40 No. 478.
熱間に於ける鐵鑄石並に耐火爐材の
瓦斯通氣率の變化 田所 芳秋 p. 619
- 採鑄冶金月報** 第10年 第10報
產金獎勵 渡邊 俊雄 p. 243
滿洲と輕金屬工業 鉛 市太郎 p. 245
- 電氣製鋼** 第8卷 第10号 昭和7年10月15日
硬度の極めて高い合金に就て 加瀬 勉 p. 465
鑄造に於ける金屬の容積變化測定の
方法に就て 金友 潤聲 p. 491
- 鑄物** 第4卷 第10号 昭和7年10月
鑄鐵鑄込速度に就て 朝鮮鐵道局 p. 1
シルジン青銅の耐水壓品鑄造法に就て 海軍艦政本部 p. 7
- 鑄鐵鑄物不良原因探究とその對策 天利 義昌 p. 11
- 會誌網島工業會** 第55號 昭和7年10月15日
鐵及鋼に於て 戸田 佐太郎 p. 1
- 機械學會誌** 第35號 第186號 昭和7年10月
金屬仕上面の粗さと機械的性質 西原 利夫
質との關係に就て 外2名 p. 1017
- 不等邊不等厚山型斷面材に於ける捩り應力
に就て(「接合法」による解法) 近藤 政市 p. 1040
- 東京工業大學學報** 第1卷 第7號 昭和7年10月
耐火煉瓦の熱膨脹に就て 近藤 清治
萬波 章太郎 p. 441
- 日本化學會誌** 第53帙 第10号 昭和7年10月28日

- 鐵と共存するアルミニウムの分離
定量に關する一考察 石丸 三郎 p. 967
- 日本鑄業會誌 Vol 48, No 570. 昭和7年10月
- 輕金屬に就て 後藤 正治 p. 937
- アルミニウム工業 高橋 本枝 p. 940
- アルミニウムの製造 鈴木 庸生 p. 963
- 鑄造用アルミニウム合金 山口 珪次 p. 973
- 鑄造アルミニウム合金 大谷 文太郎 p. 984
- 鍛鍊用アルミニウム合金 堀口 貞雄 p. 994
- 鍛鍊用アルミニウム合金に就て 古田 俊之助 p. 1027
- 電線としての輕合金アルドラ (Aldper) 岸野 佐吉 p. 1027
- アルミニウムの熔解 後藤 正治 p. 1049
- マグネシウム工業 大河内 正敏 p. 1053
- マグネシウム合金の一般 石田 四郎 p. 1063
- 航空機構造材料としてのマグネシウム 合金に就て 古知 幸次郎 p. 1071
- マグネシウム輕合金の酸素アセチレン 熔接及び其熔接劑に就て 黒田 三郎 p. 1075
- マグネシウムの熔解 後藤 正治 p. 1084
- 鎔接協會誌 第2卷 第7號 昭和7年10月
- 特種電氣鎔接法 岡本 趨 p. 445
- 對稱形前面隅肉鎔接抗張試驗體の一例に於ける鎔接部の應用狀態に就て 淺野 新一 p. 454
- 鎔接電弧に就て 岡田 實 p. 465
- 製鐵研究 第126號 昭和7年9月
- 洞岡原料工場橋型鎔石運搬能力の測定結果に就て 未藤 作次 p. 93
- 壓延儘の超高張力鋼板の有效成分範圍 足立 逸次 長井 峻一郎 p. 102
- 各種耐火煉瓦の熱的諸性質に就て 田所 芳秋 p. 110
- 鐵及鋼化學分析法の理論的考察 藤井 定夫 p. 43
- 高爐用骸炭の選擇に就て 高橋 澄 p. 67
- 應用物理 第1卷 第4號 銅は降服點現象を示すや 黒田 正夫 p. 137
- 海外經濟事情 第5年 第41號 昭和7年10月17日 シヤム市場に於ける日本商品の地位
- 石炭輸入狀況 國際粗鋼カルテル復活說
- 研究報告 三菱航空機株式會社 昭和7年9月
- No. 346 鑄造用アルミニウム輕合金(第4報) 曲肱室用アルミニウム鑄物の強度 池田 傳 p. 1
- No. 347 鑄造用アルミニウム輕合金(第5報) R.R. 合金、Y-合金、F-合金及びデュラルミニの高溫度に於ける抗張力 池田 傳 p. 17
- No. 348 アルミニウム青銅の組織に及ぼす鐵の影響 奈部 勇 p. 30
- No. 349 Piston 用地金の比較 渡瀬 常吉 p. 43
- No. 350 近代輕合金の瞥見 渡瀬 常吉 p. 52
- 電氣學會雜誌 第52卷 第10冊 第531號 可鎔器の交流鎔斷特性 小澤 省吾 p. 833
- 金屬 第2卷 第10號 不銹鋼の性質と其用途 前川 清 p. 405
- 合金の狀態圖 清水 要藏 p. 411
- ドロップフォージ 久保田 豊 p. 427
- 金屬の研究 第9卷 第10號 昭和7年10月 振り加工が金屬の比重、大き並びに電氣抵抗に及ぼす影響に就て 上田 太郎 p. 417
- 試片の屈曲による硬度の變化に就て 小久保定次郎 p. 447
- 低溫に於ける磁鐵鎔の變態に就て 岡村 俊彦 p. 457
- 特殊鋼の組織及び性質 村上 武次郎 p. 441
- 金屬の定量分析(VII) アルミニウムの定量 石丸 三郎 p. 446
- 北海道石炭鑄業會々報 第217號 昭和7年9月25日 乾式空氣選炭に就ての一考察 松野 榮治 p. 8
- 機械採炭法 日野 神兒 p. 33
- 大日本窯業協會雜誌 Vo. 40 No. 479 昭和7年11月1日 热間に於ける鐵礫石並に耐火爐材の瓦斯通氣率の變化(其二) 田所 芳秋 p. 695
- 理化學研究所彙報 第11輯 第11號 昭和7年11月 硫酸による鼠鑄鐵の腐蝕後の表面の空氣中に於ける發熱現象について 山本 洋一 p. 1215
- 特殊鋼の含むウナヂンの定量 和田 猪三郎 法について 石井 賴三 p. 1266
- 石炭時報 第7卷 第11號 昭和7年11月5日 石炭灰軟化溫度の測定 內田 正次郎 p. 24
- 應用物理 第1卷 第5號
- 應用物理學と本誌 松村 鶴造 p. 177
- 典型的な折出硬化をする Mg-Al 合金 石田 四郎 p. 178
- 燃料協會誌 第121號 燃料大觀
- 日本海防史料叢書 第4卷 (寄書)
- 燃料研究所研究報告 第14號
- 石炭の粘着成分と骸炭化性 新村 唯治
ノ
第13號
- 石炭粘結狀態及び其の試驗法 新村 唯治
ノ
野村 秀雄

昭和7年10月中(八幡)製鐵所銑鋼生産高(噸)

銑 鐵			鋼 塊			鋼 材		
當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計
55,161	- 2,863	543,864	102,082	+ 5,919	873,703	88,691	+ 13,774	747,856

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産(単位噸)一減 商工省鑛山局

品 目	8 月 分			1 月 以 降 累 計			
	昭和7年	昭和6年	比較増減	昭和7年	昭和6年	比較増減	%
銑 鐵 { 内地朝鮮洲 満通向鋼片 販賣同 鍛造 普通鋼壓延鋼材	96,162 21,645 177,524 5,292 6,628 2,670 137,169	91,337 28,963 149,321 4,093 14,217 — 113,954	4,825 - 7,318 28,203 1,199 - 7,589 — 23,215	787,364 244,437 1,494,358 43,965 97,943 15,469 1,222,657	712,717 246,082 1,182,199 36,108 58,958 — 991,131	74,647 - 1,645 312,159 7,857 38,985 — 231,526	10 1 26 21 66 — 23

普通鋼壓延鋼材内譯

厚 0.7mm 以下 鋼 板	18,419	18,624	- 205	193,627	166,665	26,962	16
其 他 鋼 板	24,744	19,505	5,239	190,835	192,504	- 1,669	1
其 棒 形 軌 線 鋼	32,586	33,449	- 863	320,191	246,076	74,115	30
其 條 材	16,970	12,440	4,530	158,024	139,628	18,396	13
其 管 他	21,043	11,297	9,746	148,805	77,590	71,215	91
其 等	15,064	10,709	4,355	134,040	115,077	18,963	16
其 等	6,268	4,726	1,542	61,515	39,193	22,323	56
其 等	2,075	3,204	1,129	15,620	14,399	1,221	8

主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産(単位噸)一減

品 目	9 月 分			1 月 以 降 累 計			
	昭和7年	昭和6年	比較増減	昭和7年	昭和6年	比較増減	%
銑 鐵 { 内地朝鮮洲 満通向鋼片 販賣同 鍛造 普通鋼壓延鋼材	90,867 20,755 191,467 6,661 11,843 3,391 157,141	88,642 31,127 167,651 4,013 10,608 — 126,917	2,225 - 10,372 23,816 2,648 1,235 — 30,224	878,231 265,192 1,685,825 50,626 109,786 18,860 1,379,798	801,359 277,209 1,349,850 40,121 69,566 — 1,118,048	76,872 12,017 335,975 10,500 40,220 — 261,750	9 4 24 26 57 — 23

普通鋼壓延鋼材

厚 0.7mm 以下 鋼 板	21,055	21,452	397	214,632	188,117	26,565	14
其 他 鋼 板	27,575	22,543	- 5,032	214,345	215,047	702	—
其 棒 形 軌 線 鋼	40,463	35,563	4,900	364,719	281,639	83,080	29
其 條 材	17,650	13,463	4,183	175,674	153,096	22,578	14
其 管 他	23,560	13,968	9,592	172,365	91,558	80,807	88
其 等	16,534	12,810	3,724	150,574	127,887	22,687	17
其 等	7,829	5,115	2,711	69,344	44,310	25,034	56
其 等	2,475	1,995	480	18,091	16,394	1,701	10

昭和 7 年 8 月中重要生產月報拔萃 (商工大臣官房統計課)

	8 月中	前 月	前年 同月	1 月以降累計		
				昭和 7 年	昭和 6 年	
金 銀 銅 硫 石 油 石 セ 過 硫	gr gr kg 東 100L メ ト 燃 酸 石 灰	1,046,639 14,070,316 5,397,147 7,207 1,895,892 213,088 282,597 72,572 65,753	1,041,480 14,276,400 5,775,213 6,835 2,080,328 218,273 269,504 72,922 61,143	984,169 13,607,741 5,744,298 4,763 1,887,026 253,888 292,356 61,390 59,565	8,102,738 104,869,711 47,039,132 47,793 17,281,120 1,711,283 2,396,943 688,040 465,036	8,134,088 109,560,991 49,868,077 36,239 17,121,367 2,071,294 2,434,334 603,797 350,401

昭和 7 年自 2 月至 9 月外國鐵輸入高 (單位疋)
(銑鐵共同販賣株式會社)

月 次	輪 出 國 名					計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	
2 月	24,187	356	101	—	102	24,746
3 月	18,300	—	—	204	102	18,806
4 月	16,986	173	—	—	—	17,159
5 月	12,655	559	—	—	102	13,316
6 月	11,636	559	—	—	10	12,205
7 月	6,509	508	5	—	102	7,124
8 月	—	—	203	—	—	203
9 月	1,909	—	—	—	—	1,909
1 月以降累計	107,300	2,694	309	311	418	111,032